



南あわじ市「食」まつり・畜産共進会

◆日時 9月23日(金) 乳牛の部、24日(土) 和牛の部

◆場所 淡路島牧場

「食」まつり(淡路牛を使ったバーベキューや牛丼の販売、淡路島牛乳の試飲など)と共進会(牛の品評会)が同時に開催されます。

市市 (いちいち)

『続三原郡史』
郡史の拾い読み 知っておきたい
地名の由来

その27



巫女の集団の定住地…

明治十年までの三原郡市村(宮地、上中原を除く)に当たる。冠称の「市」は、明治二十二年の町村制施行による市村に当たる。三条村の東にあり、論鶴羽川(現三原川)によってつくられた扇状地の扇央に位置する。北の十二ヶ所村と西の三条村にまたがる地域は、淡路国府所在地の有力な比定地で、村名は寛永四年(1627)の検地帳で国府市村と書かれ、国府の市に由来するといふ説がある(「淡路常盤草」)。それに対して十一ヶ所にある淡路総社十二明神社の西側に、集落名を「ホリコ」(徳長)という地域があり、総社の祝子(男神職)の集団の定住地で、東側の市村は市子すなわち総社に仕える巫女の集団の定住地を表わす地名であると考へられる(『護国寺誌』)。当村の字市場に事代主神社が創建されたのは、慶長年間(1596～1614)、日向国の人口某が日向の産土神夷神社を勧請したことによるといふ(「淡路草」)。定期市はその頃から開かれたのであろう。南東部を占める字福永は、平成十六年十一月一日発行「こちら合併事務局です」第29号において、合併後の新市における住所表記について、現在の表示大字「市市」は「市市」と「市福永」に二分割されることになったことを公表した。

各説 地名の改変 三原郡の大字と冠称の由来から抜粋
限定版！三原郡史の続編

編集事務局

市長公室 ☎ 43・5002